



2009. 7  
第46号

- ・東京支部総会報告
- ・記念講演「中年女の生きる道」土屋賢二氏
- ・特別記事「東京支部長時代の回想より」丸山庸子氏

支部長として4年目を迎えることになりました。思いもかけず2期勤めることになりましたが、あと1年、よろしくお願いいたします。

まず最初に、先日の支部総会におきまして、「大学女性協会東京支部」と名称が正式に変更になりましたことをご知らせ申し上げます。支部規約の一部改訂された箇所は、このページの下段に載せてございますのでご覧ください。

JAUWも法人改革の波にのまれ、昨年12月から特例法人となり、公益法人の認可を受けるべく特別委員会で作業をしてきました。新潟での総会の席では、海老根副会長から、公益法人の認定を目指したいけれども、公益事業比率50%がクリアできずおらず、一般法人の認可を受ける

4年目を迎えて思うこと

東京支部長 森川 淳子

支部長として4年目を迎えることになりました。思いもかけず2期勤めることになりましたが、あと1年、よろしくお願いいたします。

まず最初に、先日の支部総会におきまして、「大学女性協会東京支部」と名称が正式に変更になりましたことをご知らせ申し上げます。支部規約の一部改訂された箇所は、このページの下段に載せてございますのでご覧ください。

JAUWも法人改革の波にのまれ、昨年12月から特例法人となり、公益法人の認可を受けるべく特別委員会で作業をしてきました。新潟での総会の席では、海老根副会長から、公益法人の認定を目指したいけれども、公益事業比率50%がクリアできずおらず、一般法人の認可を受ける



東京支部長 森川 淳子

こともありうる、との説明がありました。この会が長く活動を続けていくために、どちらの選択がよりよいのか、考えなければならぬ時期です。

いずれにいたしましても、この会の活動を存続させていくためには、若手の人材が必要です。東京支部では、4月現在、会員が381人となりました。世の中が多様化している昨今、会員になってくださる方、支部の活動を支えてくださる方が少なくなっております。皆様にも危機感をお持ちになって、ご紹介いただきたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

会計の扱いといたしましては、支部の会計も本部会計に沿うものであることが必要とのことで、09年度予算から、全支部統一のフォームへ変わっております。

大学女性協会がどのような法人の形になりましたも、公益事業を行っていくことには変わりなく、支部でも公益性を念頭に入れ、活動を進めてまいります。今後とも皆様のご協力、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

重ねて新入会員のご紹介をお願い申し上げます。

#### （社）大学女性協会東京支部規約改正について

- ① 規約第1条1 「大学婦人協会」を「大学女性協会」に改正。
- ② 規約第2条1 「大学婦人協会」を「大学女性協会」に改正。
- ③ 規約第5条1 「その他の者」を「その他の地域の者」に改正。
- ④ 規約第14条1 「会計年度」を「事業年度」に改正。
- ⑤ 規約第15条3 「会計年度」を「事業年度」に改正。
- ⑥ 附則5 「この規約は、平成21年5月16日から一部改正し施行する。」を追加。

東京支部総会で以上のように規約改正が承認されましたので報告いたします。

（社）大学女性協会東京支部

## 2008年度(社)大学女性協会東京支部決算報告書

## 2009年度予算

2008.4.1～2009.3.31

2009.4.1～2010.3.31

## 収入の部

(単位円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I 会 費 収 入	3,285,000	3,357,000	72,000	
II 事業準備金利息収入	7,720	6,454	-1,266	
III 運用金利息収入	1,600	1,458	-142	
IV 寄 付 収 入	300,000	269,302	-30,698	ハザー サークル 講演会一般参加費 他
V 雑 収 入	20,000	28,200	8,200	入会還付金 賛助会員還付金
VI 事業準備金取崩収入	0	0	0	
A 当期収入合計	3,614,320	3,662,414	48,094	
B 前期繰越金	770,462	770,462	0	
C 収入合計(A+B)	4,384,782	4,432,876	48,094	

## 支出の部

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I 本 部 会 費	2,190,000	2,253,000	63,000	
II 管 理 費	960,000	828,926	-131,074	
(1) 備 品 費	20,000	26,140	6,140	
(2) 消 耗 品 費	80,000	46,576	-33,424	コピー代 用紙 他
(3) 印 刷 費	50,000	3,150	-46,850	ハガキ 封筒
(4) 通 信 費	230,000	172,660	-57,340	発送費 他
(5) 交 通 費	30,000	30,400	400	発送交通費補助
(6) 本部への分担金	550,000	550,000	0	本部への分担金
III 運 営 費	110,000	102,873	-7,127	
(1) 総 会 費	80,000	78,454	-1,546	会場費 他
(2) 委 員 会 費	30,000	24,419	-5,581	
IV 事 業 費	560,000	507,281	-52,719	
(1) 一 般 事 業 費	450,000	407,281	-42,719	ともしび(2回) 講演会 寄付 他
(2) 国 内 奨 学 金	100,000	100,000	0	国内奨学金寄付
(3) 調 査 研 究 費	10,000	0	-10,000	準備金
V 雑 費	10,000	0	-10,000	
VI 予 備 費	10,000	0	-10,000	
D 当期支出合計	3,840,000	3,692,080	-147,920	
E 当期収支差額(A-D)	-225,680	-29,666	196,014	
F 次期繰越金(C-D)	544,782	740,796	196,014	

## 事業準備金状況

普通預金 ￥3,860,000 中央三井信託銀行新宿西口支店

## 運用金状況

繰越金 ￥740,796  
 普通預金 ￥664,068 中央三井信託銀行新宿西口支店  
 現金 ￥76,728

会計 鈴木佳子 浜田和子

(単位円)

科 目	予算額	備 考
I 事業活動収支の部		
1 事業活動収入		
(4)会費収入		
支部会費収入	1,035,000	345口
(5)事業収入		
シンポジウム・講演会・講座収入	30,000	講演会会費 等
その他の行事参加費収入		
(6)受託事業収入		
(7)総会参加費収入		
支部総会参加費収入		
(8)寄付金収入	140,000	個人 サークル 等
(9)補助金等収入		
(10)雑収入		
受取利息収入	6,000	
その他雑収入	100,000	ハザー
(11)他会計からの繰入金収入		
本部会計からの繰入金収入	25,000	入会金・賛助会員還付金
事業活動収入計	1,336,000	
2 事業活動支出		
(1)事業費支出		
シンポジウム・講演会・講座費用支出	330,000	総会・講演会の会場費 講師謝礼 等
その他奨学金・諸経費支出		
分担金・国際関係支出		
NGO・その他分担金支出		
支部活動費支出	40,000	委員会費 調査研究費
広報活動費支出	160,000	ともしび発行(年2回)
寄付金支出	50,000	UNHCR協会への寄付
その他の事業活動支出		
周年記念事業支出		
印刷製本費支出	10,000	
通信運搬費支出	180,000	事業に要する通信費
消耗品費支出	50,000	事業に要する封筒 ラベル 用紙 コピー代 等
図書・資料費支出		
雑支出		
(2)管理費支出		
会議費支出		
支部総会費支出	80,000	総会案内の封筒および出欠 ハガキ印刷 総会茶菓子 等
旅費交通費支出	30,000	発送手伝いの交通費補助
通信運搬費支出		
什器備品費支出	10,000	テープ ゴム印 等
消耗品費支出	10,000	委員会用資料コピー代 等
印刷製本費支出		
雑支出	10,000	
(3)他会計への繰入金支出		
本部会計への繰入金支出	650,000	支部分担金(55万円) 国内奨学金(10万円)
事業活動支出計	1,610,000	
事業活動収支差額	-274,000	
II 投資活動収支の部		
1 投資活動収入		
(3)支部事業活動準備金取崩収入		
投資活動収入計		
2 投資活動支出		
(3)支部事業活動準備金取得支出		
投資活動支出計		
投資活動収支差額		
IV 予備費支出		
当期収支差額	-284,000	
前期繰越収支差額	740,796	
次期繰越収支差額	456,796	

厳正に監査致しました結果、正確に記載されており、間違いないことを証明致します。

2009年4月8日 会計監査 三浦由紀子 佐々木澄子(印省略)

※2009年度予算について

今年度から、本部に合わせて会計フォームが変更になりました。

支部に関連している項目のみ表示してありますので、番号が抜けている部分があります。

## 〈東京支部総会報告〉

書記 田辺 範子

2009年度東京支部総会は5月16日(日)、津田ホール内会議室で開催された。

支部正会員数381名中、出席者数52名、有効委任状提出者数152名、計204名で総会は成立した。

森川支部長の第52回通常総会報告と新会員増強への協力支援要請の挨拶に続き議事に入った。2008年度事業報告、決算報告、および会計監査報告が承認され、ついで2009年度事業計画案、予算案(新フォーラム)が審議承認された。東京支部規



約変更の承認、新委員の紹介後、議事は終了した。

続いて海老根副会長より、会員増強と公益法人化についてのお話をいただき、総会は無事終了した。

記念講演は、お茶の水女子大学教授土屋賢二氏の「中年女の生きる道」という演題で行われた。今回は、男性4名を含む20名近くの一般参加者があり、終始楽しく和やかな会となった。

## 〈東京支部総会記念講演会〉

(09・5・16)

## 「中年女の生きる道」

講師 土屋 賢二氏

拝啓 土屋賢二先生

先日は大学女性協会の講演依頼を快くお受けくださって誠にありがとうございました。

講演の題目にも拘らず、大勢の若い方たちが参加してくださりびっくりしました。先生の熱心な読者だそうですね。若者よ！書を捨てて街に出よう！という言葉はもはや三葉虫になり果てたと思ひ込んでおりましたので、とても嬉しく思いました。

週刊文春のエッセイにはよく奥様

が登場なさいます。奥方の前に平身低頭する亭主の図の趣ですが、先生の意図するところは…。奥様に名を借りた中年女への要望、要請、要求、そして警告であろうと勝手に解釈しております。辛辣なお言葉の羅列ではありませんが、何故かニヤリとして



しまうのです。どうしてでしょうね。先生が公言してはばからない「ブラビも真っ青！な僕の魅力」のなせる業でしょうか。はたまた今回の講演でも強調されていらした「僕の人徳」のおかげなのでしょう。

奥様ご自分のことが書かれたエッセイを笑い飛ばされるとか。本当に器の大きな方ですね！

さて、先生はミクシイでアンケート調査をなさいました。女に怖いものがありや？でしたね。

メールが来るわ来るわ。蛇にゴキブリ、容色の衰え、肥満、紫外線、

鏡、体重計etc。先生も日頃の主義主張を捨てて、怖いもたたくさんあるんやな、ちよつと守つたらか、と思われたことでしょう。夫婦の関係が怖い、夫を愛せない自分に怒りを感じるといった深刻な回答もあつたようです。

夫を愛せなくなるのは当たり前のこと、ドラマで見る夫婦愛はめったにないことだから感動的なのです。自分を責めるのは止めなさい。あなたはマザー・テレサではないのです。うわべだけでもやさしくしなさい。夫は充分喜びます。それが夫婦円満の秘訣です。先生らからぬお優しいお言葉に感激しました。

なんだかんだ言っても先生は女を理解してください、なんて思ってしまった。(いかんいかん、ツチヤ菌に感染したかな)

先生は女に逆らわず日々平穩に過ごさず、つまらない冗談にもっこり笑える心の豊かさを持ちたいと思います。今後ともよろしくご指導ください。益々のご活躍お祈り申し上げます。

季節の変わり目です。どうぞご自愛ください。

(細貝 久美子) 敬具

## 第52回通常総会報告

副支部長 松岡 幸子

今年の全国総会は5月9日・10日に開催された。新幹線はきらきら光る水田を走り抜け開催地新潟に到着。吹く風は爽やかだった。

9日の午後は臨時理事会・評議員会・支部長懇談会と続いた。

夜の懇親会では、翌日の講演に因んで、新潟の食材によるおいしい料理が用意され、萱森直子さんの贅女唄を聞きながら舌と耳で新潟を満喫した。他支部の参加者と会食できる懇親会は貴重なひと時である。

10日の通常総会には25支部から総数159名（東京支部からは46名）が出席。房野会長を議長に第1号（第4号議案迄が承認された。この中には公益化に伴う収支予算書の形

式・内容の変更も含まれる。

午後はお米の機能を探る―新潟からの発信―の演題で新潟大



学大学院門脇

基二教授の講演会。地域との連携による米についての最先端の研究成果が発表された。今年は公開だったので会場には中年男性の姿も散見された。

既に「ともしび第45号」でお知らせの通り、当協会は現在公益法人認定の準備段階にある。今大会では二日に亘り、その過程で直面している諸問題について懇切な説明があった。

それによると認定機関が公益性をどう判断するか具体的には不明確な点がある。試算では公益目的事業費率を50%以上にするのは容易ではない。場合によっては一般社団法人の可能性も浮上してくる。

懇談の部では支部会員から公益化によって今後活動内容にどういう影響が出るのか不安との声がかかれた。

11日の見学会も含め円滑な大会運営に対し新潟支部の皆様感謝いたします。

（次期通常総会は2010年5月9日静岡で開催の予定）

## 〈新潟支部主催見学会〉

(09・5・11)

## 新潟お勧めスポットめぐり

5月11日新潟支部主催のバスツアーは補助席も埋まる参加者に乗せ、先ず新潟港へ。明治元年開港五港の内、唯一現存する旧新潟税関庁舎と大型船をかたどった近代的国際コンベンションセンターは130年余の歴史の流れを一瞬で見ることができた。

日本第二の広さを有する新潟中央卸売市場を車窓から眺め、次の訪問先、石本酒造に到着。前日で酒造りを終えた建物の中には馥郁たる残りが満ちていました。100周年記念に作成されたビデオを観賞後、3班に分かれて見学。白い上着と帽子を身に着け、建物ごとにスリッパを履き替え説明を伺いました。広い建物の中は全て機械化され、麹室の中も温度計で管理しているそうです。が、究極は杜氏さんが人間の五感、目で見、鼻で嗅ぎ、耳で聞き、手で触れ、頭で考えて酒造りをしているとのこと。今年のお酒のできを尋ねると、昨年は台風の影響も無く、天候に恵まれ、よいお米ができたの



新潟市歴史博物館

で、と嬉しそうな顔をされたのが印象的でした。ちなみにお米は兵庫県三田の山田錦だそうです。お土産の幻の大吟醸「越の寒梅」を大事に抱え、越後随一の豪農、伊藤家へ。イタリアン・ランチを賞味の後、「北方文化博物館」を見学。名前の由来は伊藤家の先代と親交のあった、柳宗悦、浜田庄司、バーナード・リーチ氏などの薦めで世界最古のスカンデン野外博物館内のノルデスカムジー（北方博物館）から名づけ、毎日1俵のお米を炊く広い台所はじめ、当時の暮らしぶりそのままの展示も做っているとのこと。隣に三葉亭という書斎兼茶室があり、畳は1枚を除き全て三角形又は菱形。贅を尽くした様が窺えます。真つ盛りの藤を愛で、一路帰途に。新潟支部の温かいご配慮に感謝いたします。

(五十嵐 康子)

〈東京支部見学会〉

(09・3・31)

「總持寺拝観」に参加して

大本山總持寺は、570余年の歩みを重ね石川県にありましたが、明治31年に焼失したため現在の横浜市に移転されました。8万坪の境内に入ると染井吉野が美しく8分咲きでした。

50名の参加者が2班に分かれ拝観。東部と西部を結ぶ180mある「百間廊下」は、65名の修行僧たちによって朝夕2回の雑巾がけで磨き上げられピカピカに輝いておりました。

突き当たりの〈衆寮〉は、一般参禅者のための座禅道場として開放されており、隣りの〈大僧堂〉は修行僧の修行道場で、朝夕座禅をし、食事

も睡眠もここでとります。朝食は「小食」と呼び、おかゆ・お漬物・ごま塩等のふりかけ、昼食は「点



心」、夕食は「菓石」と呼びます。朝は4時半に起床、振鈴当番(右手に鈴を持ち修行僧を起こす)は、2時半に起きるそうです。  
「放光堂」は一番最初に出来、一般のお位牌堂にあたります。〈仏殿〉は別名〈大雄宝殿〉といいお釈迦様の法要はここで行います。  
地下を通り〈瑞応殿〉の上の〈大祖堂〉は、昭和40年に設立された本堂で、開祖をはじめ22名の祖師のお位牌が祀られております。  
「侍局」は、今年93歳になられる禅師大通晃仙住職がお住いになり、〈待鳳館〉は徳川家書院を移築した建物で、門には4種類7匹の動物(虎・象・牛・兔)の彫刻が隠れております。  
修行僧になるには、待鳳館前に並び約3時間荷物を持って待ち、許可が出て修行僧になれるのです。  
高さ180cmもある木彫りで日本一大きいと言われる大黒尊天を最後に拝観が終わり、いよいよ修行僧が作る精進料理をいただきましたが、とても美味しく、感謝し、満足したところで解散となりました。  
その後希望者は、故石原裕次郎氏のお墓と、〈日本桜名所100選〉に選ばれている三ッ池公園に行き、



1600本以上ある桜を堪能いたしました。とても有意義でステキな一日になりました。

(細田 照子)

〈第11回守田科学研究奨励賞贈呈式〉

(09・6・6)

贈呈式は、6月6日にアルカデア市ヶ谷でおこなわれた。受賞者は自然科学研究機構分子科学研究所准教授の唯美津木博士(触媒科学)と千葉大学大学院理学研究科准教授の藤川英華博士(数学複素解析学)である。式終了後唯博士の「表面を媒体とした高機能金属活性構造の創出と触媒反応のリアルタイム解析」と

藤川博士の「無次元タイヒミュラー空間とモジュラー群の力学系」と題する受賞講演が行われた。唯博士は高性能触媒の設計合成のみならず、触媒反応過程における金属活性構造の挙動の解析法の開発・改良を推進し、世界を先導する活躍が期待される。藤川博士は複素力学系の理論の基礎に新たな視点を与え、数学の複素解析学の分野で高い評価を得ている。お二人とも非専門家にも理解できるように、図を駆使して講演された。講演後祝賀パーティが開かれ、



お二人の恩師、関係者、会員諸姉の約50人が参加し祝福した。  
(熊谷 晶子)

## 特別記事

## 東京支部長時代の回想より

丸山 庸子



支部長をお引き受けしたのは、1980年4月から2年間のこと、30年近くも前のことでした。

1976年にスタートした「国連婦人の10年」の中間年に当たり、コペンハーゲンで世界女性会議が行われ、また、「女子差別撤廃条約」署名式があるなど、高揚感のある年でした。この年のIFUWの総会では、高野フミ氏が日本から初の会長として選出された年でもあります。

当時、東京支部は在籍927名、私は入会した翌々年でしたが、友人から次の支部長はお茶の水の番だからと半ば強制されてその任に就いたのですが、他の役員の方々は皆決まっておられ、たいへん協力的に迎え入れてくださいました。

支部行事として先ず企画したのは講演会でした。国際政治をその民族性という内側から理解してみたいという思いで、先ず入り口を「国際

関係論」の著者衛藤藩吉教授にお願いに上がったのですが、快諾され、その上にこの企画にたいへん乗り気で、その後のシリーズの人選などもご協力くださり、左記のようなプランとなりました。(肩書きは当時)

## 1. 民族と平和・総論

東京大学教授 衛藤藩吉

## 2. ヨーロッパ

国連大学副学長 武者小路公秀

## 3. アメリカ

東京女子大学教授 猿谷要

## 4. ソ連

東京外国語大学教授 志水速雄

## 5. 中国

日本大学教育制度  
研究所員 小川嘉子(会員)

## 6. アジア

京都大学助教授 土屋健治

## 7. アフリカ

慶応大学教授 小田英郎

## 8. 中近東

アジア経済研究所  
調査研究部長 中岡三益

9月から翌年8月まで続き好評でした。懐かしいと思われる方もおありと思い記載しました。

翌1981年は、山崎倫子会長のもと文部省国庫補助による全国セミナー「1980年代を生きる—高輪化社会を迎えて」が、伊東すみ子副会長を企画委員長としてスタートし

ました。それはまだ耳新しい、極めて先駆的なセミナーでした。各支部セミナーから始まり、全国を4地域に分けて、私たちは関東・中部地区セミナー、最後に全国セミナーでまとめるといっていいものでもした。東京支部はサブタイトルの「介護、福祉、労働をめぐる」の中でほとんど応募のなかった「労働」に応ずることとなり、百貨店と企業の探訪を行い、伊東委員長を驚かしました。このときの介護問題の調査は、30年近く前のことながら本質的な課題を捉えていて、極めて充実していた記憶があります。

こうした国庫補助による全国セミナーは以後24年間続き、女性問題の当事者の視点から社会の諸問題を見据え、その都度決議事項にまとめ、要望書を関係省庁に届けたことは皆様ご承知の通りです。

山崎会長は背筋のピンと伸びた志の高い方で、常に。私たちは社団法人なのですよ。と社会への奉仕を第一義にするという戒めをしばしば口にされていました。後に土地を公に寄付され日本で初の高齢者センター(デイケア施設)を作られ、志を形にされましたが、私たちは1957年社団法人の認可を得た折から、い

や実は、設立の当初から公益の志を持ち続けていると思っています。

今、私たちは新たな公益認定の問題でやや難渋な思いをしています。が、私たちの歩んできた道に自信を持ち、成果をもう少し公に広げる努力を重ねつつ、認定の可否を超え、男女ともに心豊かに生きられる社会の形成のため、皆様とともに努力を重ねたいと思います。

東京支部長の期間は2年でしたが、私は、子育てなどを終え諸々の経験を積まれた、気配り豊かで分別のある熟年婦人に数多く出遭いました。ときには本部の委員会や理事に入られたりもされますが、これまで会がいへんなくつかの時期、土壇場になると不思議な力で切り抜けられたのは、こうした魅力ある会員に負うところが多いいつも思っています。

## \*丸山庸子氏略歴

東京大学卒。  
1980、1982年(社)大学婦人協会東京支部長、1996、1998年(社)大学婦人協会会長、2006年「平成18年度文部科学省社会教育功労者」受賞。現在、女性の地位委員会など諸委員会活躍中。

# ともしび作品展

～水墨画教室～



## サークル紹介

### ★英語講座

- ・第一・第三金曜日

午前十時～十二時

- ・大久保地域センター三階

- ・講師・松本節也元法政大学教授

- ・「さし絵入り英国史」を講読中。

講師による詳細な訳註、ヒアリング用のテープ、参考資料をもとに

輪読しています。

- ・連絡先・中間美砂子

(☎〇四三―二七五―五三八五)

### ★楽しい俳句会

- ・第三水曜日 午後一時半～三時半

- ・津田塾大学同窓会・会議室

- ・講師・柴崎富子会員

柴崎先生の熱心なご指導のもと楽しく俳句を作っています。

メンバーを若干名募集中です。

- ・連絡先・小池朋子

(☎〇四五―九〇二―一九七三〇)

### ★源氏物語を読む会 (I)

- ・第三・第四水曜日

午前十時半～十二時半

- ・津田塾大学同窓会・会議室

- ・講師・坂上栄美子会員

宇治十帖「東屋」を読んでいます。

- ・連絡先・平田宏子

(☎〇四一七―四三―一五七三)

### ★源氏物語を読む会 (II)

- ・第二・三・四火曜日

午前十時～十二時

- ・津田塾大学同窓会・会議室

- ・講師・坂上栄美子会員

宇治十帖「蜻蛉」に入りました。

- ・連絡先・中山律子

(☎〇三一―三三三―六四六二八)

### ★水墨画教室

- ・第二水曜日 午後一時半～三時半

- ・JAUW事務所会議室

- ・講師・日高絹子(絹紅)会員

- ・初心者歓迎

若干名余裕があります。

- ・連絡先・森川淳子

(☎〇四五―五八三―三四三〇)

\*\*\*\*\*

### ◆会費納入のお願い

大学女性協会はみなさまの会費で成り立っています。会費未納の方は、用紙の「振込みのご案内」を参照の上、どうぞお早めにお振り込みくださいますようお願い申し上げます。

## 事業報告・予定

- 5・9 JAUW第52回通常総会  
 10 於・新潟
- 5・16 東京支部総会  
 記念講演「中年女の生きる道」 講師 土屋賢二氏
- 6・6 守田科学研究奨励賞贈呈式  
 講演会「臣の女」記紀・万葉・古代系譜が語る女性の出仕と律令女官制度前史」(国内奨学委員会と共催) 講師 伊集院葉子氏
- 7・25 東京支部会報「ともしび」第46号発行
- 9・29 講演会 田中隆氏  
 10・17 全国セミナー 於・ヌエック
- 12・18 第9回自然科学講演会(科学研究奨励委員会と共催)  
 新春のつどい・国内奨学金贈呈式
- 3・1 東京支部会報「ともしび」第47号発行

以後の事業は追ってお知らせします。

## 〈各係からのメッセージ〉

## ☆会員係

本部の会員委員会と連携して、支部会員の入退会、住所の変更など、会員の現状を正確に把握できるように努めております。本部会報、「ともしび」、講演会・見学会のご案内、セミナー報告、その他の大切なお知らせが確実にお手元に届きますよう、ご転居の際は速やかに支部にご連絡ください。よろしくお願いいたします。

(村木 晴子)

## ☆講座・見学会

講座・見学会では、様々な分野の講師をお招きしての講演会や、興味はあるのだけれど一人では行きにくい、あるいは団体でないし受け付けてもらえないというような場所への見学会などを今後も企画してまいります。ぜひこの方のお話が聞きたい、あるいは、ここに行ってみたいというご要望がありましたらお知らせください。

また、会員外の方も誘いいただきますよう、よろしくお願いいたします。

(堀内 洋子)

## ☆バザー係

今年度よりバザー商品も少々目新しいものを加えてみました。食の安全にこだわり、できるだけ産地直送のものも仕入れております。バッグも、使い勝手、品質、縫製の良さを売りに、ポシェット、新型トート等のご注文もお受けしております。これらの売り上げが奨学生の方々へのお役に立つことは、私どもの誇りです。どうぞ今後ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

(三浦 洋子)

## ☆ともしび係

年2回発行の会報「ともしび」が、東京支部の活動を十分にお伝えできていますように、皆様の東京支部への関心を膨らませることができていますように、ということが私たちの願いです。大学女性協会が大きな変化の時に、来し方を振り返り、行く末を考える特別記事も企画いたしました。どうぞぜひ楽しみにお読みいただければ幸いです。

(早瀬 暢子)

## ◆本部からのお知らせ

6月より事務職員の勤務日が月・火・木の週4日になりました。

水曜日は留守電・Faxで対応しております。

★住所等ご変更の場合は事務所までご連絡ください。

★使用済みの切手を事務所までお送りください。

## ◆訂正のお知らせ

ともしび45号1ページ2段4行目の「19年」は「14年」の誤りでしたので、訂正いたします。

## 〈編集後記〉

今号は、係に次々と怪我、病気が発生し、疾風怒涛の編集作業でありました。皆様のご協力を得て、無事発行にこぎつけることができました。ことを心から感謝申し上げます。

丸山氏の回想記には元気づけられます。先輩諸姉の築いてこられた東京支部の発展を願わずにはいられません。

会員活動の紹介の一端として水墨画教室作品展を掲載しました。作品のよさをできるだけ損なわないように努めましたがいかがでしょうか。皆様、どうぞよい夏をお過ごしください。

(H・O・S)

